今村城跡

水野代官所跡

せと　歴史と文化財を知る見学会
「瀬戸の中世城館と近世官舎跡を訪ねる」

主催：せとモノがたりの会・瀬戸市・（公財）瀬戸市文化振興財団

日時：令和５年３月１１日（土）

見学コース：①（中世城館跡コース）

（予定時間）　午前９時　文化センター北駐車場出発
（山口（上菱野）城跡、菱野城跡、
新田のお五輪さん、本地城跡　車窓から）
９時 30 分 今村城跡現地説明
（落合城跡、山崎城跡　車窓から）
10 時 30 分桑下城跡・品野城跡現地説明
11 時 30 分文化センター北駐車場到着・解散

②（水野氏と近世官舎跡コース）

午後１時　文化センター北駐車場出発
１時 30 分　入尾城跡現地説明
１時 50 分　水野御林方奉行所跡
・水野御殿、水野代官所跡現地説明
２時 40 分　御蔵会所跡現地説明
３時　文化センター北駐車場到着・解散

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

本地大塚古墳（西本地町2丁目）

宮地古墳群（上之山町2丁目）

広久手 30 号窯跡
木造十一面観音菩薩立像（下半田川町）県
木造阿弥陀如来立像（下半田川町）県

古瀬戸瓶子（寺本町）

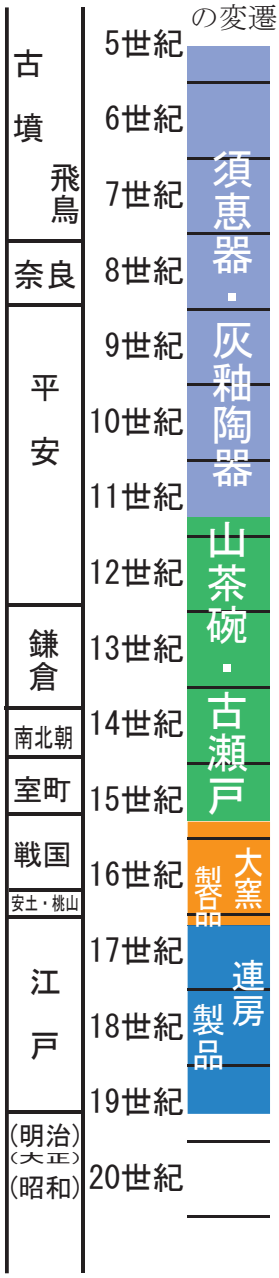
陶製狛犬（深川町）国

瀬戸窯跡【小長曽窯跡】（東白坂町）国
永享年銘梵鐘
聖徳太子絵伝（塩草町）

定光寺本堂（定光寺町）国
織田信長制札（窯町）
菱野郷倉『大般若経』［一部鎌倉］
瀬戸窯跡【瓶子窯跡】（凧山町）国
源敬公廟（定光寺町）国
笠原村・両半田川村国境争論絵図（東松山町）
石造地蔵菩薩立像（片草町）

陶質十六羅漢塑像（寺本町）
六角陶碑（藤四郎町）
旧山繁商店（仲切町・深川町）国登
瀬戸永泉教会礼拝堂建造（杉塚町）国登
陶製梵鐘（深川町）

やきもの生産の変遷



今回見学する文化財とその関連年表

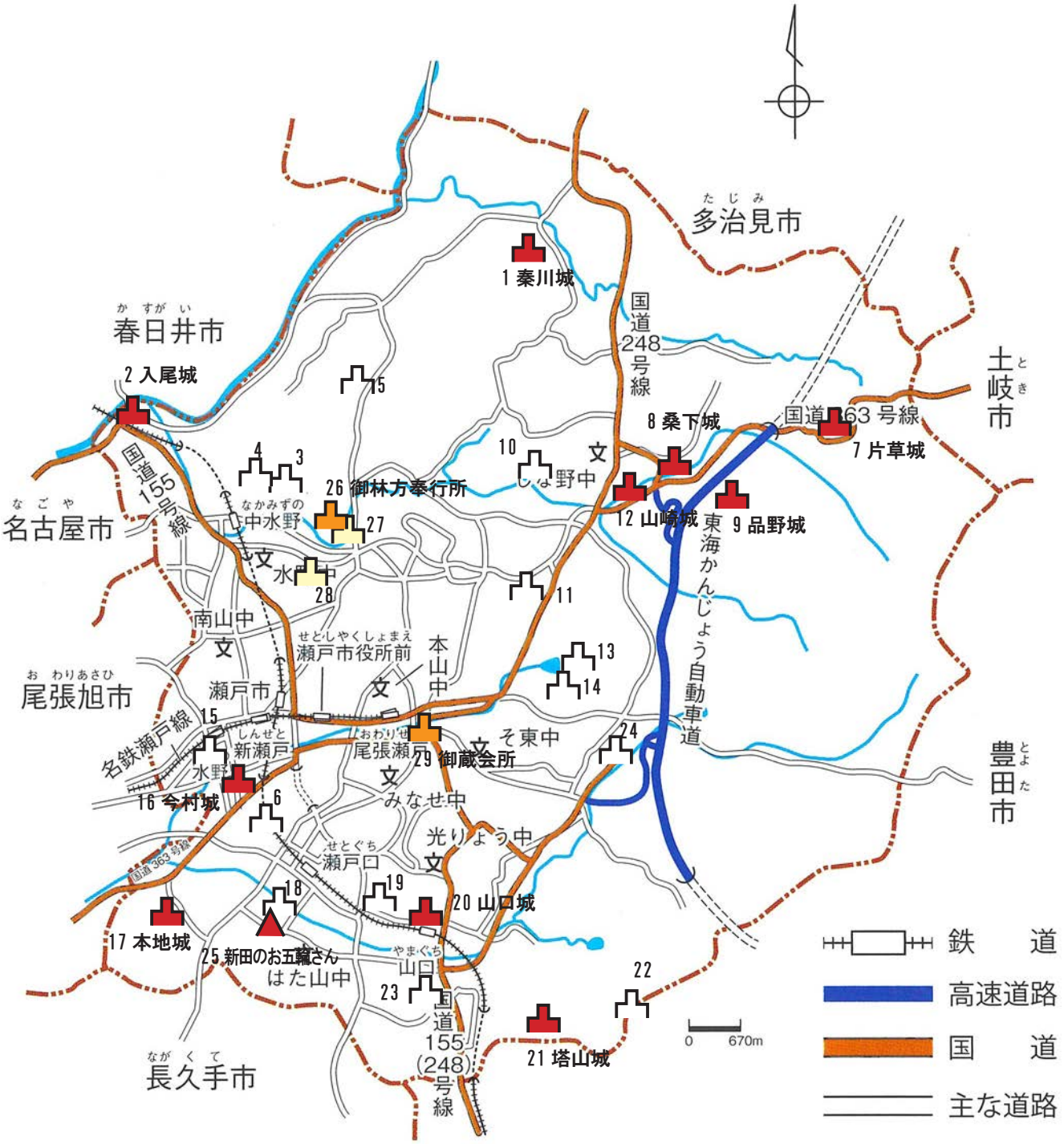
1221（承久 3）　承久の乱（山田氏の没落）
1283（弘安 6）　瀞頭（元上菱野城主山田泰親）が本泉寺創建

1482（文明 14）　松原広長が長江利景（永井民部）と安土坂ほかで合戦し討死
1529（享禄 2）　松平清康「品野の城」を奪取
1556（弘治 2）　織田信長・信行の戦い（稲生の戦い）
1558（永禄元）　織田信長軍「品野の城」を攻撃

1716（正徳 6）　水野御林方奉行所開設
1781（天明元）　水野代官所開設
1801（享和元）　尾張藩蔵元制度開始（御蔵会所開設）

1928（昭和 3）　御蔵会所跡に瀬戸町役場建設

瀬戸市域の中世城館跡・同関連遺産、近世官舎跡分布図



瀬戸市域の中世城館跡

	城名	よみ	別名	所在地	築城年	主な城主(伝承)	廃城年	施設(整備、石碑等、説明看板、案内看板)
1	秦川城	はたがわ		下半田川町		美濃池田城主家臣尾関六郎左衛門秦		せとモノがたり
2	入尾城	いりお	松原城	鹿乗町入尾	応永年間（1394～1429）か	滝口景貞、水野備中守致高		せとモノがたり
3	大平山城	おおひらやま	中郷ノ城	三沢町		水野左衛門尉(水野平七致国)		
4	シンド山城	しんどやま		三沢町				
5	一色城	いっしき	一色山城、水野城	水北町一色山		磯村左近		
6	城ヶ根城	しろがね		城ヶ根町				
7	片草城	かたくさ		片草町		長江氏、井部民部少輔、坂井氏		せとモノがたり
8	桑下城	くわした		上品野町		大金左衛門尉重高、戸田氏、坂井時忠（織田信秀家臣）、松平内膳正家重、同監物家次、同勘四郎信一	永禄3年（1560)か	せとモノがたり
9	品野城	しなの	秋葉山城	上品野町秋葉山		松平家重、松平家次		せとモノがたり
10	落合城	おちあい	長光院城	落合町		戸田直光		
11	阿弥陀峰城	あみだがみね		品野町2丁目				説明看板
12	山崎城	やまざき	山崎砦	品野町8丁目		竹村孫七郎長方		せとモノがたり
13	馬ヶ城	うま		馬ヶ城町		加藤太郎左衛門		
14	瀬戸城	せと		古瀬戸町		加藤光泰		
15	横山城	よこやま		效範町2丁目		横山氏		
16	今村城	いまむら	松原城	共栄通5丁目		松原吉之丞、松原広長		石碑、せとモノがたり
17	本地城	ほんぢ		西本地町2丁目南浦		松原平内		石碑、せとモノがたり
18	菱野城	ひしの		羽根町		林次郎左衛門（もと山田氏か）		説明簡易看板
19	大津城	おおつ	今林城	大坂町		大津八郎左衛門		石碑
20	上菱野城	かみひしの	山口城	屋形町(本泉寺境内)		山田三郎泰親	弘安4(1282)	せとモノがたり
21	塔山城	とうやま	相坂城、堂山城	広久手町		森河下総守、武田方		せとモノがたり
22	物見山	ものみやま		海上町		武田方		
23	南山城	みなみやま		上之山町1丁目		山田伊豆守重継		
24	赤津城	あかつ	飽津城	小空町		熊沢藤三郎		

（愛知県史跡整備市町村協議会 2021『「あいちのお城」調査最前線！　資料集』城館一覧表より）

瀬戸市の中世城館関連文化遺産

	文化遺産名	よみ	別名	所在地	建造年	関連人物	廃絶年	施設(整備、石碑等、説明看板、案内看板)
25	新田のお五輪さん	しんでん		新田町	弘治2以降	菱野城主林氏関連武将		せとモノがたり

瀬戸市の近世官舎跡

	官舎名	よみ	別名	所在地	開設年	主な藩士等	廃絶年	施設(整備、石碑等、説明看板、案内看板)
26	御林方奉行所	おはやしかた		水北町	正徳6(1716)	(水野致重、水野正勝)、水野正秀ほか	明治4(1871)	せとモノがたり
27	水野御殿	みずのごてん	御殿屋敷	水北町	寛永18(1641)		正徳3(1713)	(せとモノがたり)
28	水野代官所	おはやしかた		中水野町1丁目ほか	天明元(1781)	水野正恭ほか	明治4(1871)	石碑、説明看板
29	御蔵会所	おくらかいしょ		蔵所町	正徳6		明治4(1871)	せとモノがたり

1　秦川（はたがわ）城跡

看板設置場所から古道に沿って南西に 150 mほど進むと秦川城があったとされる場所に出る。伝承によると、戦国時代、美濃池田城主の家臣尾関（おぜき）六郎左衛門の居城跡で、尾関六郎左衛門は天正 12(1584) 年の小牧・長久手の戦いに参戦し討ち死にしたと伝えられる。現在、尾関屋敷の跡には平場が残るほか、屋敷の南側上方には櫓場（やぐらば）（監視櫓）があったとされる。六郎左衛門は秦とも称し、この屋敷を秦川城と呼ぶようになったといわれる。

櫓場と呼ばれる岩場（異説あり）

秦川城跡関連の地名

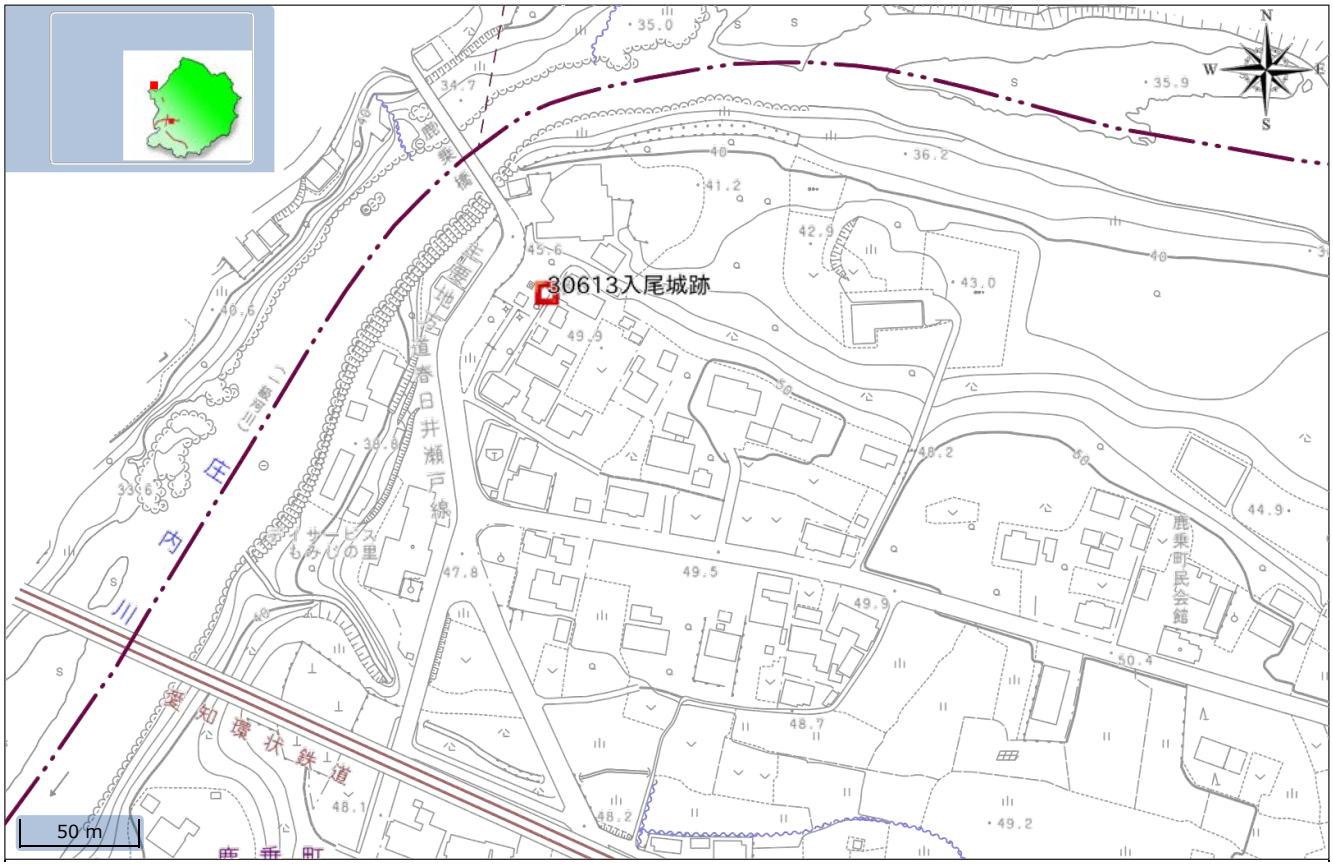
城跡の南丘陵尾根上から
北側の下半田川集落を望む

2　入尾（いりお）城跡

入尾城は、源平の乱の 60 年ほど前に平景貞（かげさだ）が土着して築いたと伝えられ、その子孫が代々水野郷や志段味（しだみ）郷を治めたとされる。

『尾張志』に「下水野村玉野川のほとりに城址あり、上水野村感応寺（かんのうじ）に古き位牌（いはい）一基ありて、義雲院仁峯宗智居士覚位としるし、うらに応永十九壬辰歳（1412 年）十二月廿八日尾州入尾城主水野（みずの）備中守平致高（むねたか）と見えたり」と記される。

城は八幡神社付近を西端にして、規模は東西 32 間 (約 58 m)・南北 31 間 (約 56 m) で、四方に一重掘が巡らされていたと伝わる。

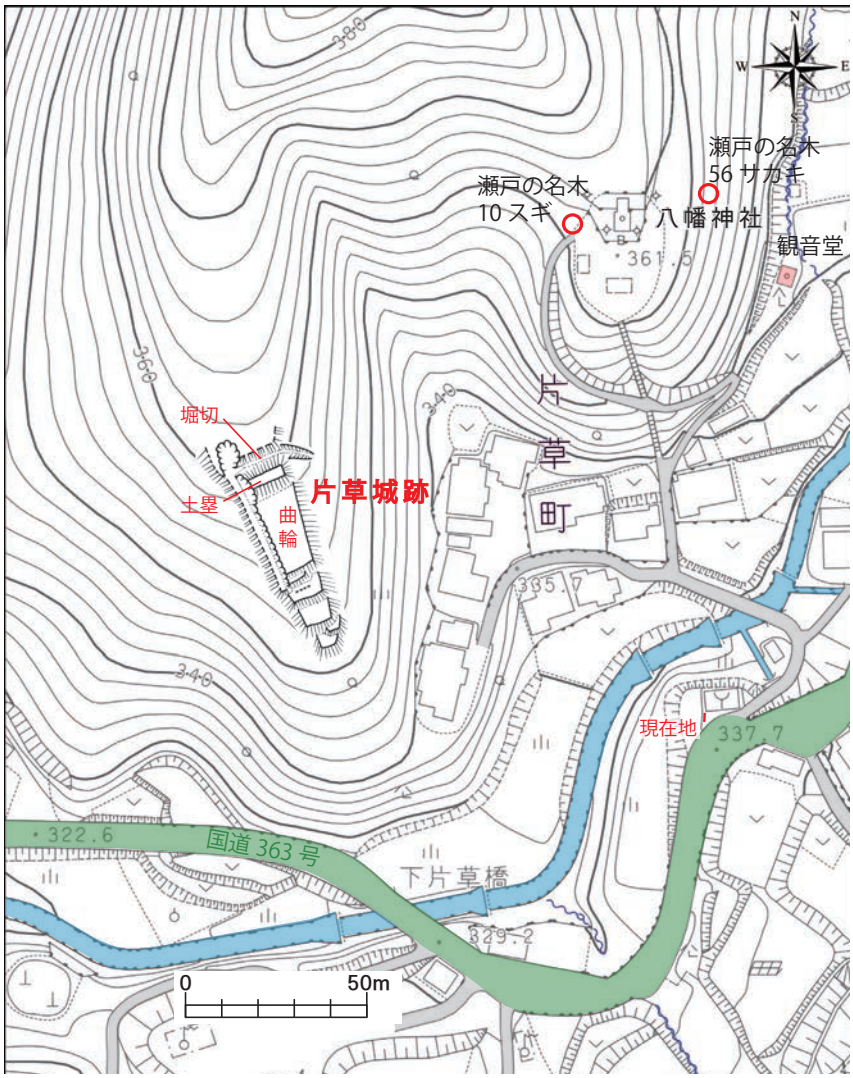


江戸時代の『張州雑志』に描かれた　庄内川からみた城跡の景観

7　片草城跡

瀬戸市域（尾張）の最東部の城であり、ほどなく美濃の土岐や三河へ通じる。片草の集落や人の往来を見渡せる高台に立地する。

城館の遺構は、北部の坂井山から南に延びる坂井ヶ根と呼ばれる小尾根の突端に位置し、尾根筋は幅５ｍに達する堀切で遮断し、その南側に土塁を設け、南北20ｍ東西10ｍの平坦面の南側に複数の曲輪が連なる。『瀬戸古城史談』では、坂井十郎・赤座新兵衛の居城で、片草・白岩・半田川を領有したと記述されている。

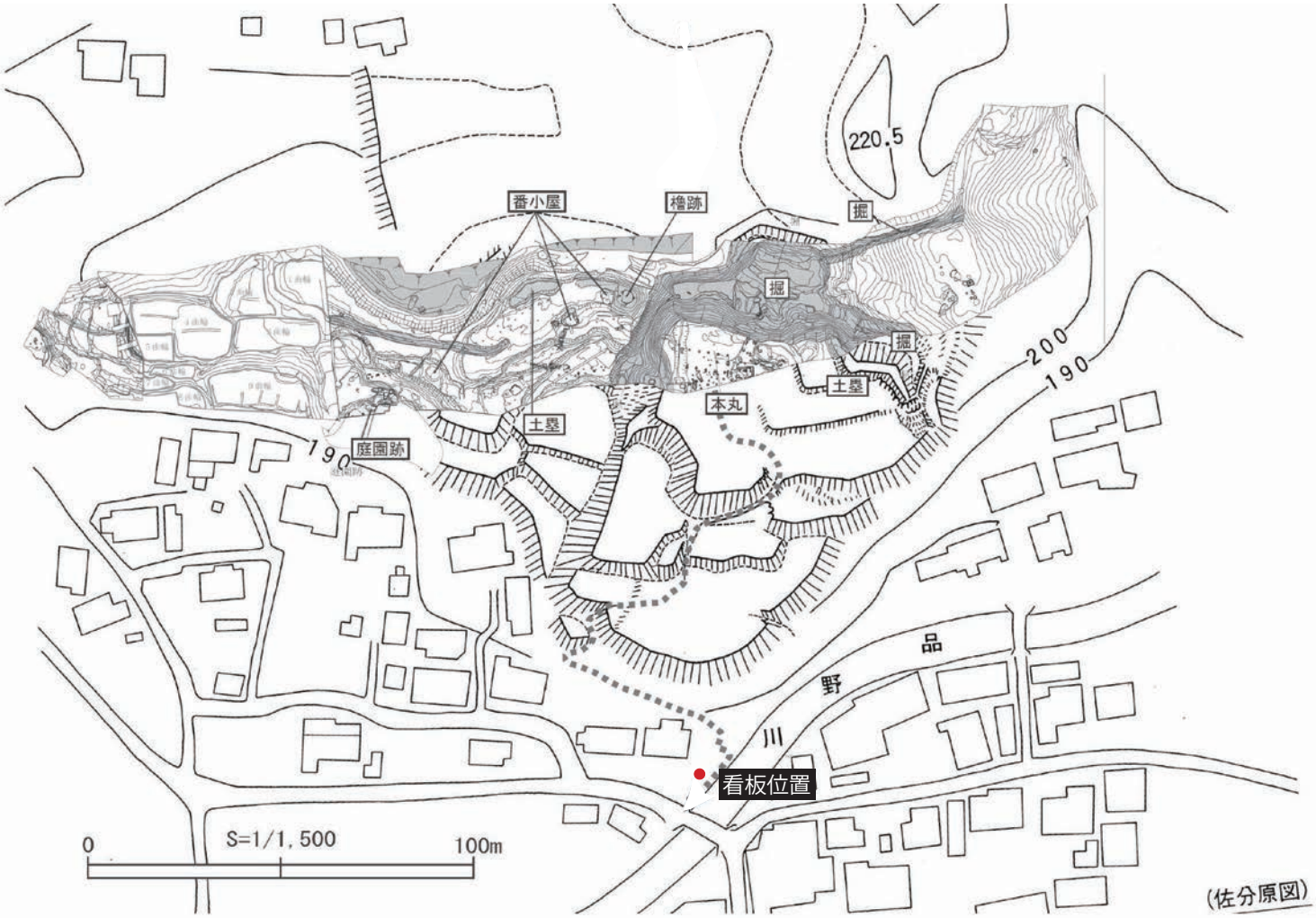


秦川片草集落と片草城跡（福島克彦氏縄張図を現地形図に重ねる）

8　桑下城跡

三国山の西麓に立地する在地領主の長江氏（永井氏）の居城。東西約220m、南北約100ｍの範囲に大小15以上の曲輪があり、その多くは今も良好に残る。享禄2(1529)年に三河の松平清康（徳川家康の祖父）が攻略し、城は叔父の松平信定に与えられ、長江（永井）刑部はその家老として在城した。永禄元(1558)年には織田信長の攻撃を退けたが、同3(1560)年の桶狭間の戦いにより今川勢が敗退し、織田氏勢力下となったため城は放棄されたとみられる。北側部分の発掘調査では和鏡などが出土している。

平成 19(2007) 年の桑下城跡の発掘調査 (北西から) 画像：愛知県埋蔵文化財センター提供

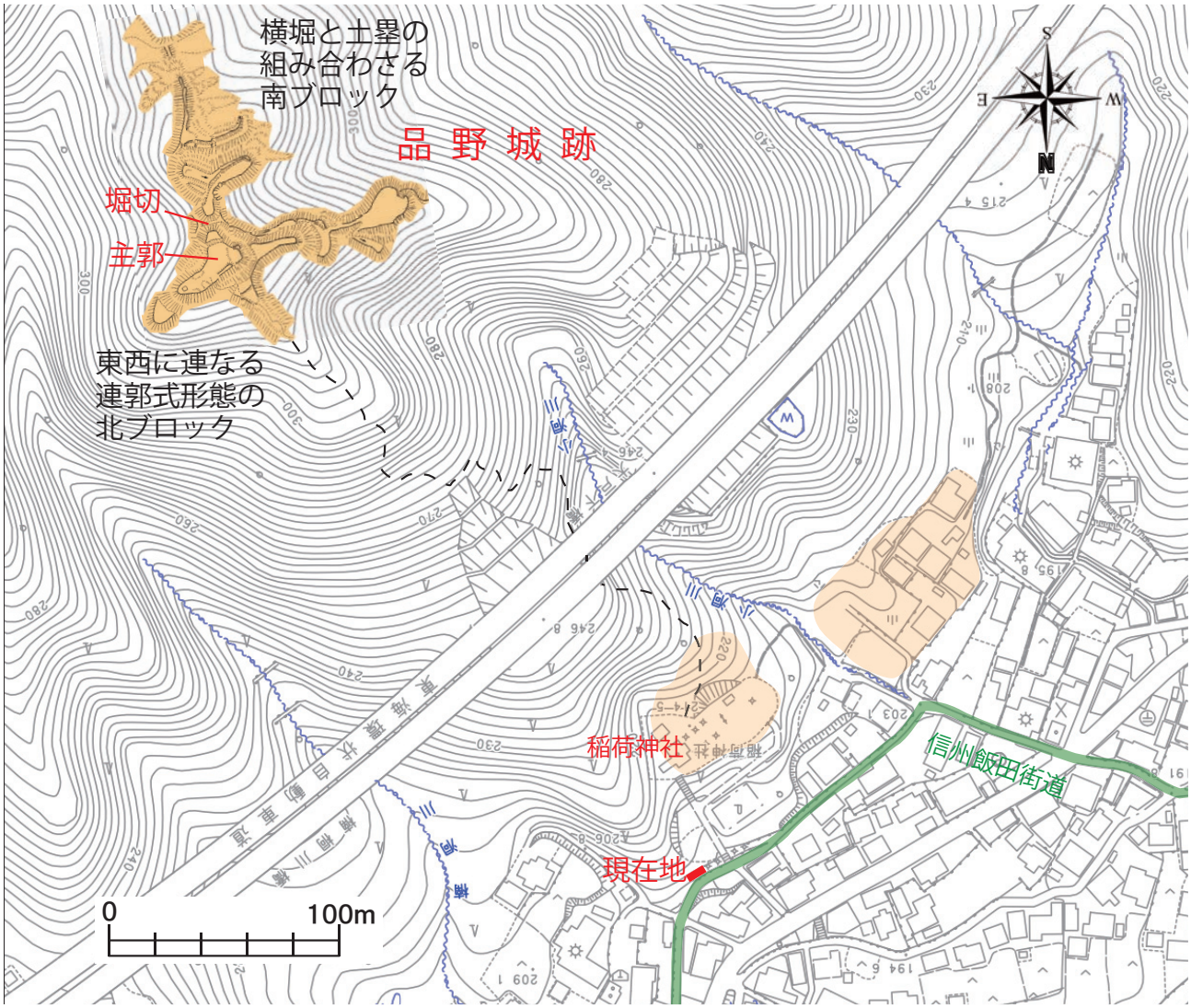


桑 下 城

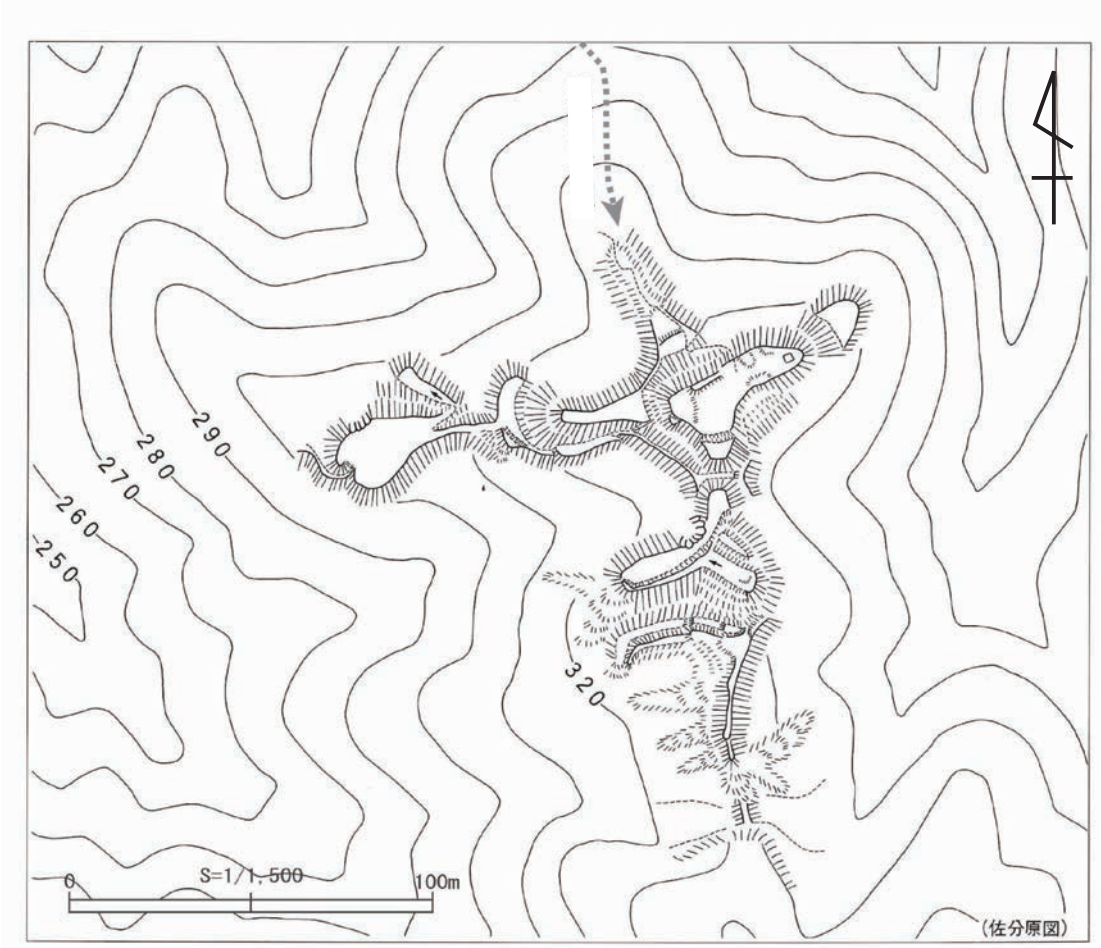
（福島克彦1991「桑下城・品野城」『愛知県中世城館跡調査報告Ⅰ（尾張地区）』の縄張図に愛知県埋蔵文化財センター2009『桑下城跡2009現地説明会資料』の桑下城跡主要遺構平面図を合成）

9　品野城跡

品野城は別名秋葉山城とも呼ばれ、主郭は標高 330 mの山頂にあり、その東西および堀切を挟んだ南側に 8 ヶ所以上の曲輪が連なる。現在稲荷神社境内である麓の曲輪とは 115 mの比高差があり、戦の際に籠城する詰めの城でもあった。このため、水野川を挟んだ低い丘陵上の桑下城が主に居館で、詰めの城の品野城と一連で機能したものと考えられている。築城は 13 世紀の鎌倉時代とも伝えられ、16 世紀の戦国期には尾張の織田勢と三河の松平・今川勢との間で国境の争奪戦が展開した。



城跡に残る曲輪跡 (縄張図は佐分清親氏作成)



品野城縄張図 (福島克彦 1991「桑下城・品野城」『愛知県中世城館跡調査報告Ⅰ (尾張地区)』より)

12　山崎城跡

品野城（城主松平家次）を攻略するため織田信長方の武将が築いた付城 (臨時の陣城)。永禄元年 (1558)、織田軍の品野城猛攻に耐えた松平勢は、豪雨の夜に山崎城に奇襲をかけた。織田方は大混乱となり竹村孫七郎、磯田金平、戸崎平九郎、滝山三郎以下五十余名が討取られて惨敗し、廃城となった。瀬戸市の城跡で実戦伝承が残されている数少ない城の一つである。

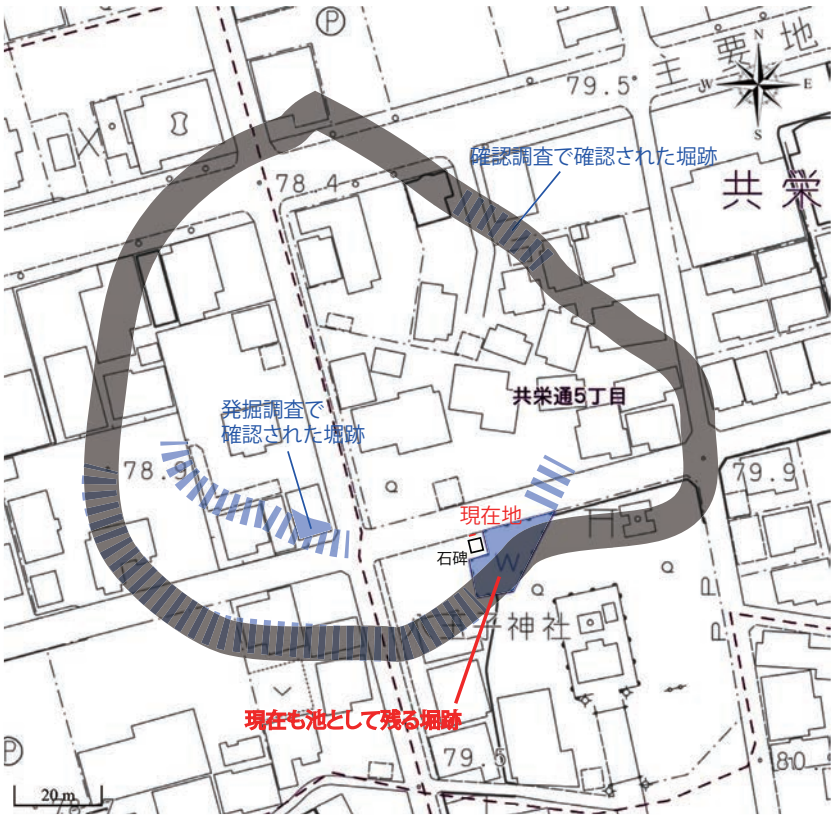
城跡の通称五輪山には敗将の供養墓と伝わる五輪塔などが祀られ、南麓の民家の一隅に「おがたの井戸」と呼ぶ井戸跡がある。

城跡内の五輪塔・宝篋印塔

16　今村城跡

今村城は別名「松原城」とも称され、その規模は地籍図などから、東西 50 間（90m）、南北 60 間（108m）で、四方に一重の堀を巡らせ、南側のみ二重の堀とし、土塁を伴った城構えとみられる。城主であった松原広長は、文明 14（1482）年、品野の桑下城主長江利景 (永井民部) と安戸坂で戦いを行ったが、敗れて戦死した。生前、寺域や『聖徳太子絵伝』等を寄進した赤津の万徳寺には広長の首が祀られた松原塚が残されている。城の南東に位置する八王子神社の境内には、今でも城の堀の一部を見ることができる。

明治期地籍図にみられる今村城跡の堀跡等



地籍図から推定される今村城跡の範囲
（福島克彦 1993「瀬戸の中世城館について」
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要ＸＩ』より作成）
※水色破線は発掘調査等により推定される堀跡

17　本地（ほんぢ）城跡

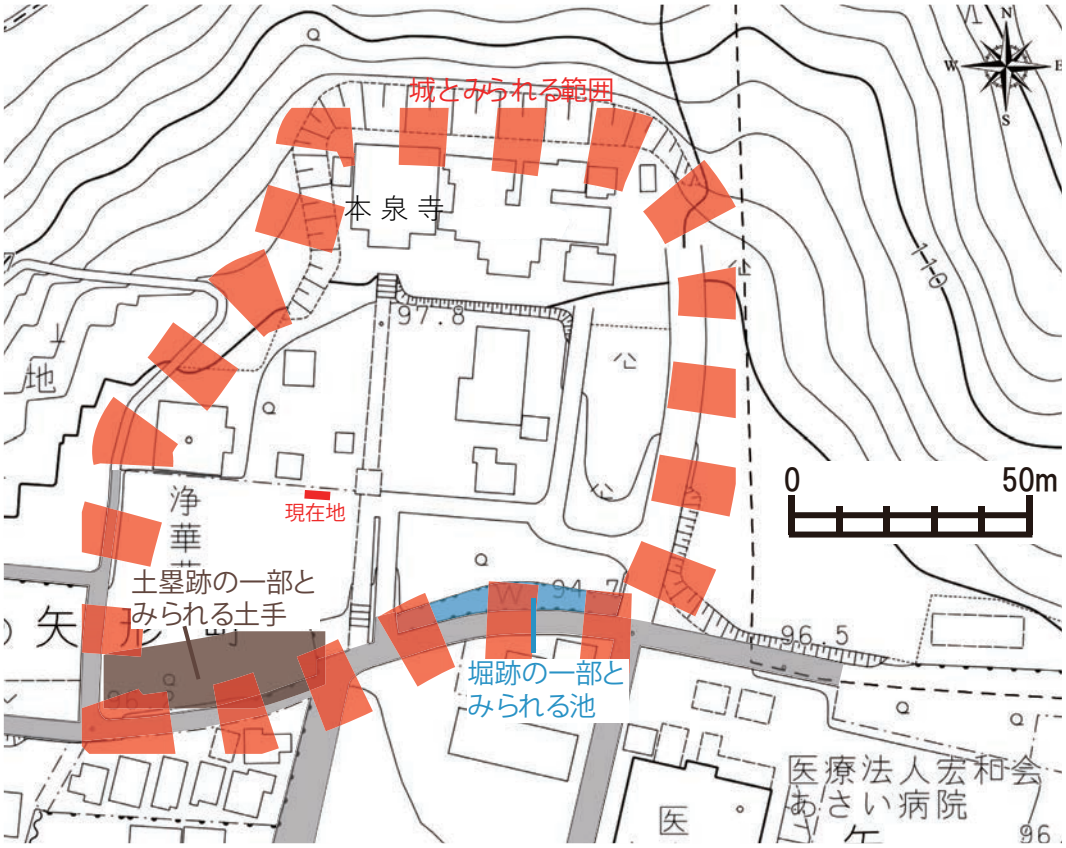
西本地町地内の中央寄りに位置し、山口川と本地川の作り出した舌状の台地の端に立地し、『尾張志』に「東西三十五間 (63 m)、南北二十四間 (43 m) ばかり」とある。城主は松原平内（へいない）と言われ、今村城主松原広長（ひろなが）の叔父とも弟とも伝えられる。松原広長は、文明 14（1482）年、品野の桑下城主長江利景（としかげ）(永井民部（みんぶ）) との戦いで敗れ戦死、平内も参戦し、安戸坂（やすどざか）で討ち死にしたと伝えられている。城域の西隣に『松原平内公本地城址』の石碑が建ち、弁財天が祀られている。

地籍図から推定される本地城跡の範囲
（福島克彦 1993「瀬戸の中世城館について」
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要ＸＩ』より作成）

20　山口（上菱野）城跡

現在真宗高田派本泉寺の境内となっている区画は、山口城があった場所である。南側には土塁や堀跡の池も一部残る。中世の山口地区は上菱野ともいい上菱野城跡とも呼ばれる。

承久の乱（承久 3(1221) 年）で一旦没落した山田氏は、その後山田泰親が上菱野、泰親の弟の山田親氏が下菱野の地頭職にそれぞれ任じられ城主となった。寺伝では、泰親は後に出家し瀞顕と名乗り、弘安 6(1283) 年に城の南に本泉寺を建てたが、慶長 18(1613) 年に水害により、寺を現在地へ移転したとされる。

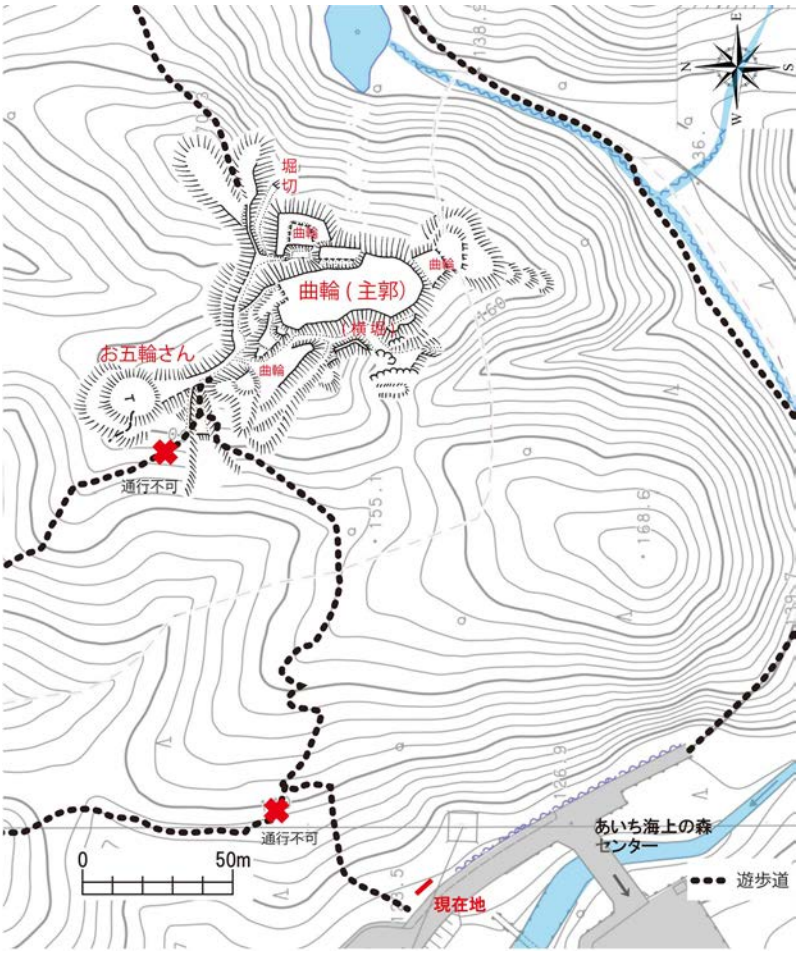


本泉寺境内に残る山口城の堀・土塁

21　塔山城跡

塔山城の城主は、古代に農業用灌漑用水の森河井を開削した森河下総守と伝えられる。北側の曲輪に建つ五輪塔（お五輪さん）は下総守とその家臣の墓と伝えられるが、中世以降のものである。標高 168.4 mの山頂の南北 48 m東西 20 mの曲輪（主郭）を中心に東・南・西に曲輪が連なる。

また、村絵図には「甲斐信玄番持古城址」と記されており、武田信玄置戍の地（軍の駐屯地）と言われている。



塔山城跡の縄張図（佐分清親氏原図）
（現在の地形図に重ねている）

25　新田のお五輪さん

戦国時代、菱野の有力者として林一族があり、天文 17(1548) 年に完成した菱野熊野社の棟札に「林兵衛左衛門尉光利」の名が記されている。織田信長が弟信行と戦った稲生の戦い（弘治 2(1556) 年）では、矢田川南の菱野城から林惟光、北の狩宿城から林正利が、信行側について戦い両将は戦死したと伝えられる。ここは、稲生の戦いなどで築かれた地内各所の塚を集め祀った場所である。今でもお盆には里人が提灯を灯し、供養の行事が続けられている。

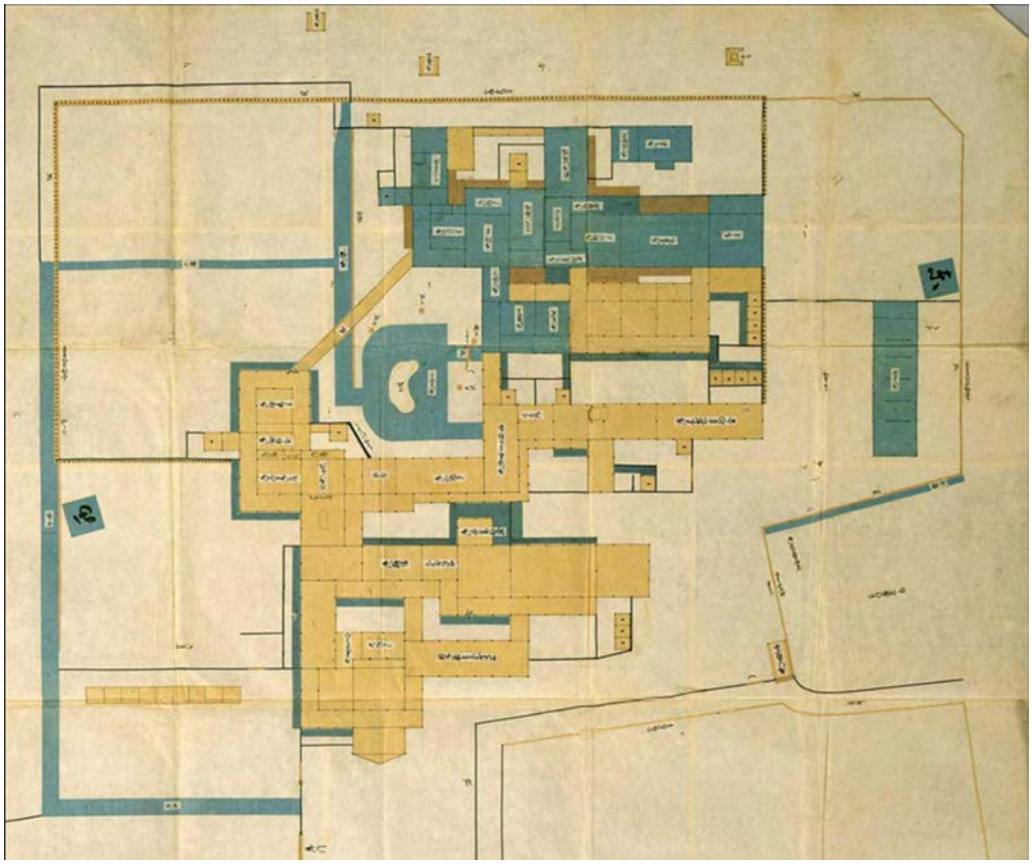
お盆の供養（右イラスト：大澤啓三氏）

26・27　御林方奉行所と御殿

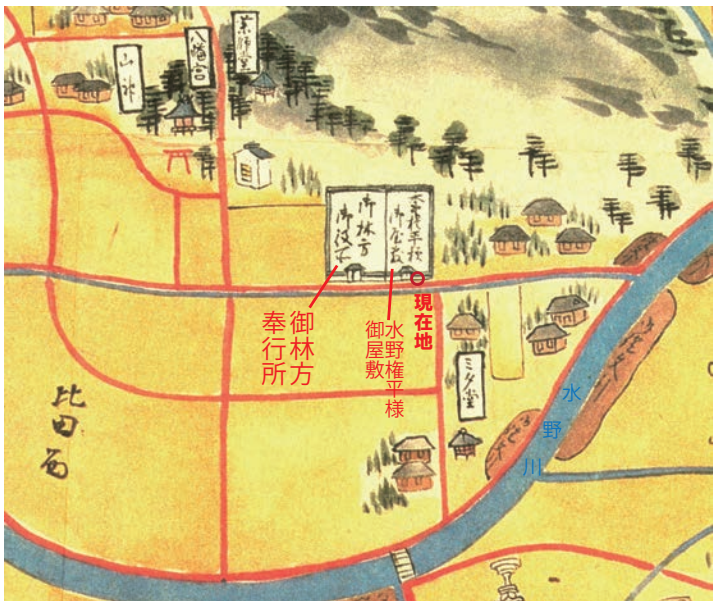
水野御林方奉行所は、江戸時代に尾張藩が支配する山林 (御林) を管理した役所で、正徳 6 年 (1716) 4 月に設けられた。当初は愛知・春日井郡の御林 13,400 町歩 (132.9km²) の管理だったが、安永 9 (1780) 年に知多郡、寛政 2 (1790) 年に美濃上有地 (現在の美濃市上有地) までの広大な御林の管理へ拡大した。上水野村に御林方奉行所が置かれたのは、初代藩主徳川義直が狩猟を好み、水野致重を御狩り場の案内役とし、遊猟の時に泊まる御殿 (別荘) を建てたことにはじまる。奉行職は水野家が世襲で務めた。

鹿狩絵図 (『瀬戸市史 資料編四 近世』より)(個人蔵)

水野村狩場・殿舎図 (『瀬戸市史 資料編四 近世』より)
(名古屋市博物館蔵)



『水野新御殿之図』(名古屋市蓬左文庫 蔵)



江戸時代の村絵図に描かれた御林方奉行所（天保 12（1841）年）
（徳川林政史研究所蔵）

江戸時代末の建物配置見取図
（現在の地形図上に重ねている　村絵図と配置が異なる）

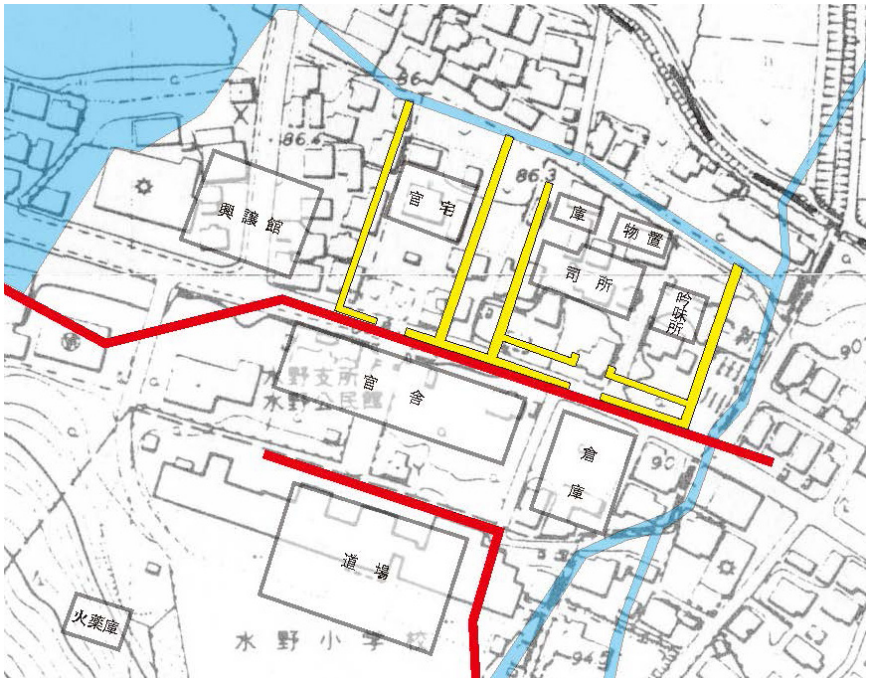
（28　水野代官所）

尾張藩の村方支配は、名古屋城下の国奉行所で行われ、代官や奉行は現地には赴任せず、必要に応じて手代を派遣する程度であった。しかし 18 世紀後半になると、大洪水などの災害が相次ぎ、加えて役人の不正や農村の困窮など、問題が山積するようになった。そのため天明元年（1781）に大改革を行い、現地に代官所を置き、所付代官を赴任させた。

水野代官も天明元年に設置され、初代代官には林奉行の水野正恭が就いた。

代官所は中水野村の御鳥林の麓に置かれますが、当初は役人の官舎がある程度であった。代官職が水野氏の手を離れると、本格的な陣屋整備が文化 10 年（1813）に行われた。

水野代官所の支配村は愛知郡 25 ヶ村、春日井郡 81 ヶ村、美濃国可児郡 5 ヶ村の 111 ヶ村で、石高 6 万 1310 余石であった。水野代官所碑陣屋には代官の他、手代、同心（足軽）、小使が置かれ、支配下の村への触れの伝達、年貢免定の発給、庄屋の任命、百姓からの願い・訴えの受理など民政全般を行っていた。



水野代官所跡の建物配置（『東春日井郡誌』の配置図を都市計画図に重ねる）

29　御蔵会所（おくらかいしょ）

御蔵会所は、享和元 (1801) 年に始まった尾張藩陶磁器専売制度 (蔵元制度) により、陶磁器製品の納入・検品・積み出しを行う施設であった。

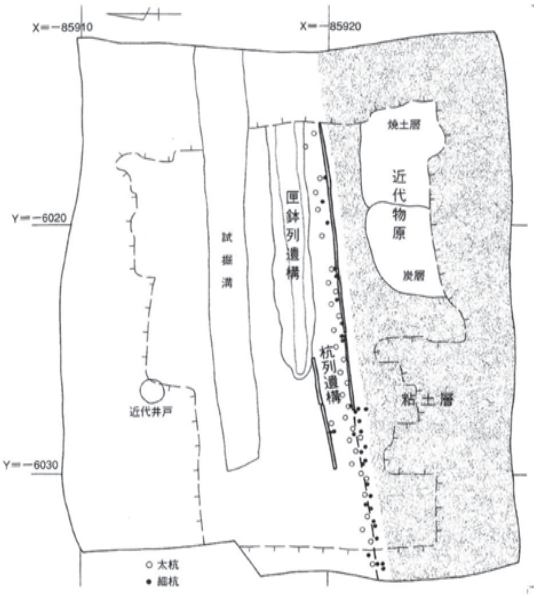
明治以降は役場 (昭和 4(1929) 年以降市役所) や警察署、陶磁器陳列館などが建設され、行政･文化の中心地となり、昭和 34(1959) 年から市民会館、平成 17(2005) 年から「瀬戸蔵」へと変遷した。平成 15(2003) 年の発掘調査で御蔵会所の柵跡が発見されている。その出土品は瀬戸蔵ミュージアムで一部展示されている。

遺跡名となっている「御蔵会所」とは、尾張藩主導のもと、瀬戸で作られた陶磁器の流通を統制するために 19 世紀初頭に建てられた施設。当初は瀬戸・赤津・品野の 3 か村に設置されたが、文政九年（1826）に瀬戸川の南岸に隣接した瀬戸村の御蔵会所に統合され、その際、大規模な建て替え工事が行われた。文政年間の村絵図である「瀬戸竈之図」には、荷小屋や下物小屋・絵薬土蔵・灰釉小屋など 10 棟以上の建物が、板塀によって囲郭されている様子が描かれている。

本遺跡の発掘調査は瀬戸市市民会館の老朽化による瀬戸蔵への建て替えに伴う事前調査として、平成 15 年 2 月 12 日から 1 か月余りの期間で行われ、御蔵会所に関係すると思われる遺構として杭列と匣鉢列が確認された。

杭列は直径 15㎝前後の太い杭が 2 列確認され、そのうち南側の杭列の外側には直径 10㎝どの丸太状の横木が組み合わされていた。その杭列の外側には湿地であったと思われる土が堆積していたことから、この杭列が陸地を湿地から護岸するため、御蔵会所の南側境界に建てられた柵の基部と考えられる。

匣鉢列は杭列の北側、すなわち御蔵会所の敷地内にあたる場所で確認された。杭列より約 30㎝ほど高くなった段上に、杭列と並行して掘られた幅約 1.5m の溝の底に 29 個体分の匣鉢が並べて設置されていた。この遺構がどのような役割を担っていたかは不明。



調査区遺構配置図（1：200）

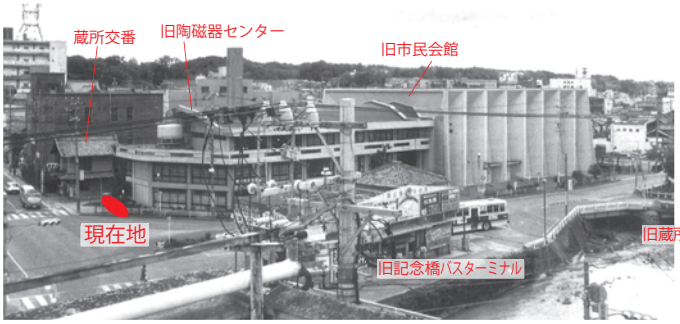
調査区全景（西から）

杭列近景（西から）

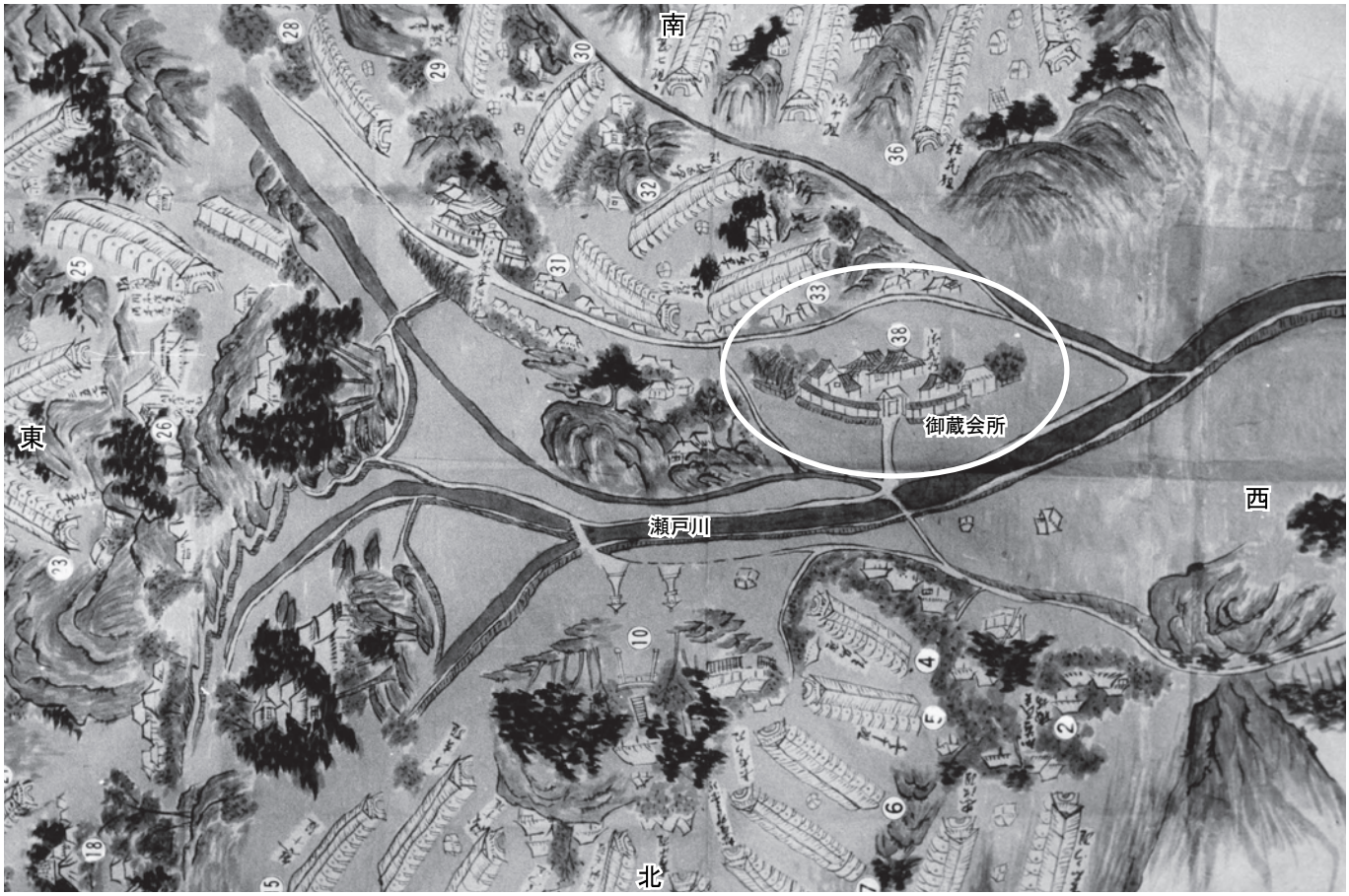
匣鉢列近景（西から）

上：『瀬戸村竈之図』に描かれた御蔵会所（北東から）
文政期 (1818-30）前半

中：昭和 3(1928) 年の瀬戸町役場ほか (北東から)
(フォトスタジオ伊里所蔵)



下：昭和 60 年頃の瀬戸陶磁器センター・市民会館
(北東から)



『瀬戸竈之図』に描かれた「御蔵会所」

せとの魅力再発見

瀬戸市歴史文化基本構想を推進するため、
瀬戸市の各地区から
歴史文化に詳しい市民が参加して
ワークショップを行い、
「瀬戸」の重要な文化遺産のものがたりを
4つ選び出しました。

日本遺産のまち 瀬戸市

瀬戸 千年陶都 THE CITY OF CERAMICS SETO, JAPAN いいもん せともん

文化庁

本事業は、平成31年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術振興費補助金）を活用して実施しています。

お問い合わせ
瀬戸市歴史文化基本構想を活用した
観光拠点形成のための協議会
0561-84-1093
［瀬戸市地域振興部文化課］

歴史 文化

せとの魅力は「せともの」だけじゃない!?
市民が推す四つのせと物がたり

新時代の
ツクリテは
何処に？

せと物がたり１

尾張・三河・美濃
三国の
交わるところ

せと物がたり２

マメ姫

美しい自然に
親しむ

せと物がたり３

祭りと伝承

せと物がたり４

物がたりの舞台を巡りながら、
せとの魅力を再発見してみよう!
新開設!「せと物がたり」はコチラから